

R5年度 「家庭総合」 シラバス	単位数 学科・学年・学級	2単位 生活科学科 第1学年 4組
------------------	-----------------	----------------------

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、衣食などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。
使用教科書・副教科書等	教科書 「高等学校 家庭総合」 (第一学習社)

2 学習計画及び評価方法等

月	学習内容	学習のねらい・目標	資料・方法 題材・その他
4 5 6 7	家庭総合を学ぶにあたって 第6章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事 ①私たちと食事 ②健康に配慮した食生活 ③食生活の変化④持続可能な食生活 2節 栄養と食品 ①人体と栄養 4節 食生活をデザインする ⑤調理の基本 実習①きゅうりの和え物 全国高等学校家庭科技術検定 【食物調理検定4級】受験	○家庭総合の学習の意義や学習内容、学習方法、評価の方法を理解する。 ○自分の食生活を振り返り、課題を明らかにできる。 ○食事と生涯の健康の理解し、食生活にかかわる情報適切に判断することができる。 ○食生活の変化や問題点を知り、資源や環境、地域産業などに配慮した食生活を計画する。 ○食品の栄養的特質について理解する。 ○調理の基礎・基本を身に付けることができる ○簡単な調理を通し、調理実習室の安全な使用方法について理解する。 ○技術検定取得に向け、筆記試験や実技試験の対策に取り組み専門的な知識・技術を習得する。	教科書、プリント 調理の基礎 DVD 画像レシピ 検定対策資料
9 10 11 12	第6章 食生活をつくる 2節 栄養と食品 ②炭水化物 実習②親子丼 実習③麻婆豆腐 ③脂質④たんぱく質 実習④硬じゅーしー 実習⑤グルタン ⑤無機質(ミネラル) ⑥ビタミン ⑦し好食品と健康増進のための食品 3節 食生活の安全のために ①食品の選択と保存②食品の安全と衛生 4節 食生活をデザインする ①栄養バランスのよい食事 ②食品群と摂取量の目安 ③ライフステージと食事 ④献立作成の手順	○食品の栄養的特質について理解する。 ○簡単な調理を通し、食生活の自立に必要な知識と技術を習得する ○加工食品や健康増進のための食品を利用する際のポイントを理解する。 ○食品の選択や保存方法、食中毒等に関する知識を身につける。 ○健康を保つためには、何をどれだけ食べれば良いのかを考えることができる。 ○食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、経済、能率、家族の嗜好などを考慮して献立作成する。	資料集、教科書 プリント 画像レシピ 実習の計画性・安全性に十分配慮する
1 2 3	第1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 ①生涯発達する自分②青年期を生きる ③キャリアの形成 ④ワーク・ライフ・バランス 2節 家族・家庭と社会とのかかわり ①家族・家庭・世帯②家族・家庭の働き ③パートナーと出会う ④結婚と変化する家族 ⑤家族に関する法律	○さまざまな価値観やライフスタイルを知り、自分の生き方を考える。 ○ワーク・ライフ・バランスを維持できる環境について考えることができる。 ○家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律などについて理解する。 ○男女が協力して家庭を築き、生活を営むことの重要性について認識する。	教科書、新聞 プリント、 DVD 視聴

- ・ 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で行います
- ・ 評価の方法は、学習状況、提出物(プリント、ファイルなど)、定期テスト、実習における積極性、実習態度を総合的に評価します。

R5年度 「家庭総合」シラバス	単位数 学科・学年・学級	2単位 生活科学科 第2学年 4組
-----------------	-----------------	----------------------

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、衣食などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。
使用教科書・副教科書等	教科書 「家庭総合 自立・共生・創造」 (東京)

2 学習計画及び評価方法等

月	学習内容	学習のねらい・目標	資料・方法 題材・その他
4 5 6 7	家庭総合を学ぶにあたって SDGsについて 第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢社会・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会 第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	○家庭総合の学習の意義や学習内容、学習方法、評価の方法を理解する。 ○SDGsを通して、世界の現状を知り、課題の解決のために自分たちができる協同的な解決策を考えることができる。 ○高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について理解する。 ○高齢期の心身の特徴や認知症について理解する。 ○高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について問題を見いだして課題を設定する力を身につける。 ○家族と地域との関わりについて理解する。 ○生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。	教科書 インスタント シニア教材
9 10 11 12	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を作る 被服実習①ハーフパンツ 3 被服を入手する 4 被服を管理する 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	○用途にあった着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 ○ハーフパンツ制作において基礎縫い及びミシンの名称と扱い方を理解する。 ○健康・快適・安全な生活を送る為に、被服表示を参考に目的に応じた被服入手と着装について考える力を身につける。 ○環境に配慮した衣生活について考え、被服の洗濯方法や保管方法を科学的に理解する。 ○日本の衣生活の変遷や衣文化に込められる知恵や技術を理解する。 ○次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直すことのできる力を身につける。	教科書 プリント 裁縫セット ミシン 実習の計画性・安全性に十分配慮する
1 2 3	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	○住居の機能について理解している。 ○快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ○持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について考えることができる。	教科書 住宅情報紙 プリント、 DVD視聴

- ・ 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で行います
- ・ 評価の方法は、学習状況、提出物（プリント、ファイルなど）、定期テスト、実習における積極性、実習態度を総合的に評価します。

R5年度「家庭総合」シラバス	単位数 学科・学年・学級	2単位 第2学年 1・2・3・5組
----------------	-----------------	----------------------

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、衣食などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。
使用教科書・副教科書等	教科書「高等学校 家庭総合」（第一学習社）

2 学習計画及び評価方法等

月	学習内容	学習のねらい・目標	資料・方法 題材・その他
4 5 6	第1章 これからの生き方と家族 1 節 生涯の生活設計 ①生涯発達する自分②青年期を生きる ③キャリアの形成 ④ワーク・ライフ・バランス 2 節 家族・家庭と社会とのかかわり ①家族・家庭・世帯②家族・家庭の働き ③パートナーと出会う ④結婚と変化する家族 ⑤家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の歴史、本授業の内容と目標、評価の方法について理解する。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・今までの自分の成長を振り返り、生涯発達の視点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見通す。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家族を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族関係の現状と法律について理解する。 ・家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 	レポート提出
7	第3章 充実した生涯へ 1 超高齢社会を生きる 2 人生のなかで高齢期をとらえる 3 高齢期の生活 4 高齢社会を支える 5 充実した高齢期へ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢者の心身の特徴について学び、身近な高齢者から話を聞き、体験グッズを利用し現状を体感する。 ・高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ。 ・身近な高齢者とのふれあいの機会を探す。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。 	インスタニア教材 車いす
	第4章 ともに生きる 1 社会保障と社会連携 2 人の多様性と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・社会制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支えあって生きる社会の考え方について理解する。 ・ノーマライゼーションの理念を土台にして、地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなどの具体的事例を通して考察する。 	レポート提出
9 10 11 12	第6章 衣生活をつくる 1 人の一生と被服 2 被服材料と管理 3 これからの衣生活 4 被服をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服などの学習を通して、布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現代に生かす。 ・衣服と社会生活の関わり、目的に応じた着用などの学習を通して、被服のさまざまな機能や役割を整理する。 ・衣服の購入、繊維製品の表示、手入れ方法（洗濯、保管）について理解する。 ・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 	衣服素材
1 2 3	第7章 住生活をつくる 1 人の一生と住まい 2 住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能を考える。 ・平面図の基礎知識を得て、間取りが理解できるようにする。 ・ライフステージに合った住居を考える。 ・住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性などを考慮する必要性を学ぶ。 ・バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 ・住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解する。 	住宅新聞 チラシ

※ 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点で行います

※ 評価の方法は、学習状況、提出物（プリント、ファイルなど）、定期テスト、実習における積極性、実習態度を総合的に評価します。

R5年度「家庭総合」シラバス	単位数 学科・学年・学級	2単位 第3学年 1, 2, 3, 5組
----------------	-----------------	-------------------------

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、子どもとのかかわりと福祉、消費生活、食などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。
使用教科書・副教科書等	教科書「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍）

2 学習計画及び評価方法等

月	学習内容	学習のねらい・目標	資料・方法 題材・その他
4 5 6 7	家庭総合を学ぶにあたって 第2章子どもと共に育つ 1. 命を育む 2. 子どもの育つ力を知る 3. 親として共に育つ 4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 5. これからの保育環境 第6章 食生活をつくる 5. 調理の基礎 実習①災害食実習	○家庭総合の学習の意義や学習内容、学習方法、評価の方法を理解する。 ○命に対する責任について考え、胎児の発育と母体の健康管理について理解する。 ○子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ○子育てをサポートする社会支援について理解を深め、社会全体で子育てをすることの意義を考える。 ○子どもの権利と福祉について考える。 ○「災害時の食」の課題を知り、実践を通して必要な備えや工夫を学ぶ ○食品の調理上の性質について理解する。	教科書 プリント DVD教材 妊婦疑似体験 おりがみ 保育人形 調理の基礎 DVD教材 教科書 画像レシポ
9 10 11 12	第6章 食生活をつくる 1. 食生活について考える 2. 食事と栄養・食品 実習②親子丼 実習③硬ジューシー 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画 6. 食生活と文化 実習④麻婆豆腐 実習⑤グラタン 7. これからの食生活	○自分の食生活を振り返り、課題を明らかにできる。 ○食品の栄養的特質について理解する。 ○簡単な調理を通し、食生活の自立に必要な知識と技術を習得する。 ○食品の選択や保存方法、食中毒等に関する知識を身につける。 ○食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、経済、能率家族の嗜好などを考慮して献立作成する。 ○行事食や郷土食について触れ、継承することの意義について理解するとともに食事マナーや外国の食文化に関心をもつ。 ○食生活の変化や問題点を知り、資源や環境、地域産業などに配慮した食生活を計画する。	資料集、教科書 プリント 画像レシポ 実習の計画性・安全性に十分配慮する
1 2	第5章 経済生活を営む 1. 職業生活を設計する 2. 計画的に使う 3. 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4. 消費行動と意思決定 5. 現代の消費社会 6. 消費者の権利と責任 7. これからの消費生活と環境	○経済的自立と職業設計の重要性について知り、自分の将来について考える。 ○収支の実態を知り、計画的に使えるようになる。 ○日常の生活行為が社会に与える影響を理解する。 ○消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解し、消費者として主体的に判断できる。 ○現代の消費生活を理解し、自立した消費者について考える。 ○消費者の権利と責任について理解する。 ○日常生活が環境に与える影響を考え、持続可能な社会を目指したライフスタイルを提案することができる。	教科書、新聞 プリント 視聴覚教材 DVD教材

・ 評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点で行います

・ 評価の方法は、学習状況、提出物（プリント、ファイルなど）、定期テスト、実習における積極性、実習態度を総合的に評価します。